

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

# 〔調査研究活動〕ベトナムの社会人類学研究 ベトナム班調査日誌

著者	末成 道男
雑誌名	アジア文化研究所研究年報
巻	38
ページ	214-222
発行年	2003
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00011357/">http://id.nii.ac.jp/1060/00011357/</a>

形成され、社会現象と化している。しかしながら学術研究のレベルにおいては、こうした都市化現象の研究が遅れている。今回、こうした状況のなかにあつてタイの研究機関・研究者がどのように研究を進めているのか、そして本研究所の画口授フロンティアとの連携が可能であるのかを調べた。

こうしたなかにあつてバンコク東部に位置する研究機関の『タイ発展研究所』通称 TDRI (Thailand Development Research Institute) は極めて大きな可能性を秘めた研究機関である(写真1参照)。日本においてインターネット上に展開するホームページ (URL: <http://www.info.tdri.or.th>) を通じて、タイの大学以上に積極的に研究を展開している機関であることがうかがえたが、実際に訪問してみると、二階の図書館(写真2参照)は欧米語とタイ語による白書・統計資料・研究文献・逐次刊行物が収集され、廉



写真1 TDRI

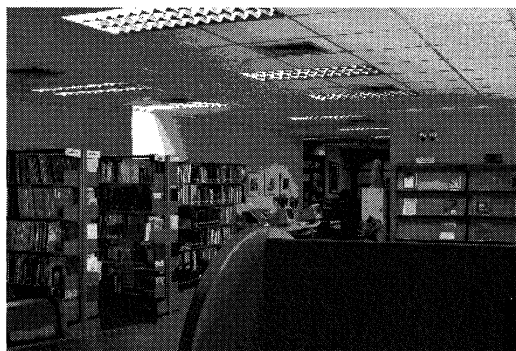


写真2 図書館

価な入場料で誰もが利用することが可能である。研究レポート・紀要・研究図書も英語およびタイ語にて多数出版している。研究員はいずれも外国語に堪能なタイ人研究者と海外からの研究者によつて構成されている。本研究所にとつても極めて重要な研究機関であり、提携が望まれる。

短期間であつたが、この研究所を利用してみてバンコクの都市化問題については極めて多種多様な調査・研究が展開されていることが理解できた。しかしながら筆者が期待していたようなバンコクのアラブ人街に関する研究はこの研究所でも行なわれていなかった。研究者の問題意識としては取り上げることがあつてもバンコクの現実が研究の実践に迫っていないのが現状とのことである。その意味において、タイ人研究者と連携しつつアラブ人街研究の実践の必要性を強く再認識するに至つたのが本年の研究成果である。

# ベトナムの社会人類学研究——ベトナム班調査日誌

研究員 末成道男

期 間 二〇〇三年七月二十八日～八月二十八日

調査地 ベトナム、フエ近郊農村

七月二十八日(月) 旧暦六・二十八

二十一時四十五分 ハノイ空港着。二時間前ホーチミン市から着いた本多君が、出迎えに来てくれる。一五キロ近くになり未だ減らし足りない

思っている手荷物に吃驚している。聞いてみると、かれの荷物は、パソコンの周辺機器、これまでの調査資料などをハードケースにしつかりと収めるとこの倍はゆうに超えるらしい。若くて元気なのはよいが、腰痛に氣をつけるように話す。

七月二十九日(火) 旧暦六・二十九

六時起床 今度は、ハノイ滞在を数日にとどめ、なるべく早くフエに行くため関係機関や友人に、電話でその手配や挨拶をする。八時二十分 フォーの朝食、前回フォー屋さんが宿付近から姿を消し、しかも八時をまわっていたので諦めていたがすぐそばで新しいのが開店していた。量は少ないが、味はまさにハノイのフォー。午後NDJ教授に会う。慣習法をまとめた分厚い新刊書をもらう。今回のフエ行きについて相談、少数民族の調査は予想以上に厳しそうな反応。今年始めに来日していたNDJ君がフィアンセと一緒に夕食に招待してくれる。最後に出てきた釜飯と魚釜煮、それにダナン風の蜆汁が秀逸。帰りに寄った還劍湖を見下ろすカフェーで卵ミルクカフェを飲む。外国人では、いくら滞在していてもありつけない味と場所。

宿に戻って、本多君の撮ったサイゴンの埋葬ビデオ見る。三代前広東からやってきた家主の親戚の埋葬と「墓の扉を開ける」儀礼と言う。白い喪服、冠(白帽繩)、白鉢巻など白が基本だが、麻は使わず、故人の孫の世代で赤い布をつける。有髪黄衣の僧侶(あるいは北部ならタイクン)が儀式を司る。行列も白制服を着けた海軍風の洋楽隊、泣き女有りで、台湾や華南漢族のものと似ている点少なからず。しかし、墓の頭の前に、サトウキビで作った梯子を立てかけ、その右横にサトウキビ(小さいときからの母親の功績と苦勞を思い出すように労らうサトウキビと言う。)を立てか

けるのが、北のバナナの幹で作った梯子を屋根に立てかける風習との関連で氣になる。

七月三十日(水) 旧暦七・二

午前、昨年世話になった工場にゆく。社長留守だが、『ベトナムの祖先祭祀』届ける。

午後、川上君が尋ねてきてたので潮曲へ挨拶回り。

夕方、陳興道通りの精進料理店でフエ行きのメンバーとNDJ君二人を交え食事。昨年夏フエでの精進料理の味を知ってしまうと点数が辛くなる。

インターネットを試み三時間無駄にする。

七月三十一日(木) 旧暦七・三

民間文化研究所近くのコーヒー屋で時間待ちをしていてオンディア(地翁)像について尋ねていると、居合わせた地理風水師が話しかけてくる。最近の建築ブームで、都市ではこの種の漢字を読める専門家はまさに有卦に入っているらしい。

民間文化研究所でフエ調査のための紹介状をもらい、ベトナム航空でフエ往復切符購入。夕食に宿の近くのビアホイでヤギなべ。美味しいが暑い。八月一日(金) 旧暦七・四

十時〜十一時半 漢喃研究所に行き、ワインさんに有名なベトナム医の海上ラン翁の伝記コピーしてもらう。科挙を六人出している名族出身で、王の世子の病気で呼び出され、治した功績で二〇人分扶持を与えられるが、田舎に帰りたくてたまらずささと帰郷するなど韓国の伝統医が中人身分で差別されていたのとはかなり異なる。

八月二日(土) 旧暦七・五。

十二時十分 ハノイ発

十三時 フェのフーバイ空港着。窓際に席を取り、上空から注意していたが、海岸線の順安開口部を見逃し、空から見た清福むらの写真を取り損ねる。もつともあまりに遠すぎるので、来往ではコースを異にし今回は外側から入ったのかも知れない。

定宿のレロイホテル前で降りる。フロントで、今晚だけ部屋はあるが、明日から予約でいっぱいとのこと。何とか大会が開かれ余所も満員だろうと言う。ところが二十三日間の長期滞在とわかると前金を支払えという。さっきの満員というのはおどしだったらしい。本多君の交渉力で一〇%負けさせる。

荷物を棚入れ、シャワー、昼寝。

十八時 DB 先生が来訪。さっそく、明日日曜だが手続きを進め、明後日月曜から清福に入れるようにしてくれる。しかし、少数民族調査は難しいと言う。

十九時散歩がてら雄王通り外れのインド料理へ。美味しいが辛い。値段もそれほど高くないが、客は殆ど西欧人。

八月三日(日) 旧暦七・六

七時朝食 ホテル東側食堂でハノイ風の牛肉フォー麺は美味しく、ネギや野菜の付け合わせはひと揃い出すが、肉はごくわずかで日本並み、スーブも水っぽい。

八時二十分 Kさんくる。調査について打ち合わせ。齋食に招待してくれるという。

九時〜十一時半 グエン・フェ通り、科学センター大学前の古本屋、宿

近くの新刊本屋、雄王通りの新刊本屋、橋向こうの市場手前の新刊本屋と書店めぐり。

DB 先生が手続き書類を持ってきてくださる。

夕方、Kさん迎えに。タクシーで南郊より少し西に行ったところで南に降り禅宗系の尼寺へ。本堂は仏像少なく、日本並み。Kさんの一族の一人がこの住職をつとめていたことがあるとのこと。講堂の一角で、ロウソクの明かりだけで食べる。最初に全部並べるベトナム式。味は、やや脂っこいが、寺の雰囲気味わえ、得難い経験。

八月四日(月) 旧暦七・七

七時四十分 清福むらを尋ねる。村長宅相変わらず。

まず、村長さんのオートバイに乗せてもらって社の人民委員会に行く。会議終わるまで待ち、安寧、主席に挨拶をする。

十二時半〜十四時昼寝

午後から、むらの地図作りを始める。二つのソムをすます。

今日のデータ、Excelに入力しようとしたが、プリンターWindowsでうまく出せず。手書きにする。PCに入れておけば後が楽だがやむを得ない。

八月五日(火) 旧暦七・八

七時半宿発

七時三十二分 宿付近の船着き場で、ディエン・ホンチェン例祭の御座船一号に乗りこむ行列を見かけ、乗船から出港まで見送る。行列の後ろに数種の少数民族風の衣装を着た人が続く。一昨年はじめて目にしたときは、いかにも少数民族らしいムオン族風の服装だけだったが、今回は本多君の指摘もあってその周囲に居るキン族とは異なった服装にも目が行く。

清福むらに着き、むらの家並みと庵を入れた地図づくりの作業を続ける。

十三時 暑いのと(三七度) 停電なので、村長宅に寄らず、東牌の川沿いの道を散歩する。涼みに出ている人も多い。黎族族長に誘われビールご馳走に。ペランダから、廟と庵を見ながら、村長も交え雑談がはずむ。庵を眺めて質問していると廟も見行けと案内される。前見せてくれた時は一瞬だったが、今日はゆっくり見せてくれる。中に陰霊祠と書いてある。

十八時～二十一時 DB先生をインド料理に招待。それほど辛くないので、口に合ったもよう。帰る途中、お宅にお茶に誘われる。こういう場合、タクシーを待たせておくのは、運転手も含め平気らしい。

八月六日(水) 旧暦七・九

七時十分宿発 途中、コピー屋が未だ閉まっているので、ホテルで地図フォーマットを複写。

七時五十分 清福着 むらの川端の店で、春雨のように透き通った皮にエビや餡を包みヌオックマムなどにつけるシュウマイ系の朝食をとる。ベトナムが調査地であることに至福を感じる。

八時半～十二時 新開地で一番個数の多い三十軒通りの地図づくり。名前のだけの手書き地図を完成。

十六時～十六時五十分作業途中で本多君が近くで鳴っている鐘の音に気づく。出て見るとタイクンの家の庭に壇をしつらえ、三人の補助者を加え儀礼が進行。おばあさん、黄色の布を被りぐるぐる体をひねって回り、左手で二本指を示し、布を跳ね除ける。疏文を五・六通読み、冥錢を焼く。

十七時十分 清福発 途中、コンピューター店で直接USB接続、あるいはCDと日越フォント混在の図面が印刷できるか試す。USB接続はハー

ドが認識せず、CDは文字化けして駄目。Unkeyが入っていないためらしい。係りの人は技術者らしく、てきぱき対応。

八月七日(木) 旧暦七・十

九時村長宅着、村長社へ、村長宅でデータ整理、去年のフィールドノートの索引作り。

十二時昼食(ぶり丸煮)、マムトム、卵焼き、野菜スープ

十二時半～四〇 寺本堂見学。

十三時～十三時半 ノート整理。

十三時半～十五時 昼寝。

十五時半～十六時五十分 村長さんから、家庭について聞く。

十七時十五分 清福発

八月八日(金) 旧暦七・十一

七時四十分宿発

八時半村長宅着

家庭 ソム六の五軒について、詳しく聞く。

十二時～十二時半 昼食(煮魚二種、苦瓜スープ、野菜おひたし)

宿で資料整理。

八月九日(土) 旧暦七・十二

八時 清福着

八時十分村長宅着

家庭 ソム六の五軒について、詳しく聞く。

十二時～十二時半 昼食

十三時～十四時昼寝

十五時川上君ハノイから、フエ到着、Cさんのオートバイで来る。雑談。  
十七時 宿着。

八月十日(日) 旧暦七・十三

午前 町でUSBプリンターケーブル探し。三軒目で埃をかぶっていたのが見つかる。地図打ち出し成功、リスト作り。

十五時五十分清福着

十六時十分村長宅着

阮越族の忌日祭祀。

潘有三支祠堂を出たところ、西南隅に天仙聖母の殿があるのに気づく。

八月十一日(月) 旧暦七・十四

八時十分発 雄王通りのコピー屋で抜き刷り製本を受取り、八時五十分羅溪の丁宅着 潘氏会同について聞く。通常村内に留まっている父系集団ゾンホの連合がゆるやかながら形成している事例として興味深い。十年前北部においてもその動きがすでに認められていたが、中部の村落においての具体例を確認したのは、今回が初めてである。

十時 村長が中元の前日なので、フエの寺院を見ようと案内してくれる。慈曇寺、慈孝寺、広済寺などすでに訪れた所もあるが、中元前日のため、観光客殆ど見かけず、寺内の修行の活動を垣間見たり、住職に会うことが出来るなど別の面を見ることが出来る。雄王通りの近くの精進料理屋に寄る。店が模様替え広くなって客が増えたせいかな、昨年の感激の味と違ってきた。他で食べるように油っこい感じ、ただ、食感の点では抜けている。十三時半〜十六時清福近隣のむらの寺をむらのシクロを雇ってまわる。こじんまりしているが子供活動盛んな雲竜寺、光徳寺をみて湾に出て、海老

の養殖場を見る。珍しく漁業神の祠が建っている。十六時〜一八時半 寺の家庭仏子の会がキャンプのようなテントをはって準備、会長にさそわれ食齋のごちそうになる。

八月十二日(火) 旧暦七・十五

八時十分発 八時五十分清福着 寺で、家庭仏子の活動見学、Tさんから、行事について若干聞く。

寺で盂蘭盆の儀礼を見て受祿。

十四時〜十六時村長からゾンホについて聞く。

十六時〜一八時半 三十軒通りの頭の四・五軒の庵について聞く。

十九時十分〜二十時 餓鬼供養の祭壇を見て、明日延慶行きが早いので引き揚げる。

八月十三日(水) 旧暦七・十六

六時五十分発 七時半清福に寄り、七時五十分 九人で出発。

九時〜十時十分 温泉プール公園 Tahtuan に到着。

十二時 延慶に到着。待っている間に、この前寄らなかった寺と天依那廟を見学。

十四時〜十六時 昨年と同様じっくりと行われる炎天下の五献礼。受祿も同様フランスパンとじゃが肉が合う。

十七時〜十九時 雨が降り始めたが、地元の人たちと、白砂の浜辺で海水浴と酒盛り。今年は、イカだけ。

十九時〜二十一時半 帰りは時速八〇kmで近道をとばしたのに、工事中で引き返すなど、かえって遅くなる。

二十一時五十分宿着。

八月十四日(木) 旧暦七・十七

九時二十分〜十一時五十分 タイクンの家で写真を見せてもらいながら、葬式について聞いている内に、この前の儀礼の話が問わず語りにでてくる。

十八時〜二十一時 観光客向け風のレストラン *Esprit* でKさんを招待。Kさんの見立てで魚料理がおいしい。

八月十五日(金) 旧暦七・十八

八時五分〜九時 清福むらへ、Itoさんに誘われ、ビールご馳走に。祭壇には本命神が祀られている。男の本命神は正面に祀るらしい。四代祭祀、外族祭祀、庵の形は、基本的には二つ。内外。

一八時半着

十九時向かいの外人向け簡易料理店 卵とじの皿飯、安くて量はあるが塩辛い。

八月十六日(土) 旧暦七・十九

午前中、村で庵と祭壇を調査。

帰る途中で記念品用の時計(千七百円)を買う。輸入物は置いていない。ネーム入れるのに最初トプラを貼り付けようとするので、手書きにしてもらう。流れるような筆記体。地元の人には、価値観が逆なのかも知れない。

十五時〜十六時昼寝。

宿に帰り、地図チェック

八月十七日(日) 旧暦七・二十

七時十分 朝食を村で食べることにして、出発。

七時五十分村の船着場館でフエの牛肉ブンとバインを朝食。

村長さんの家に行く途中しさんに会う。五分でよいから家で儀礼をやる

〈報告〉平成一五年度「学術フロンティア」プロジェクト

ので見に来ないかという有難い誘い。行つて見ると山のような供え物を用意してある。これから川で儀礼が二〇分したら始まりすぐ終わるまで待つてくれと言うので、川の儀礼もぜひ見たいと川へ向かう。川辺の奇石夫人廟で入り口向かって左に祭壇を設け、昨年デイエン・ホンチェンの船渡御に同行したタイクン補助者がクンをしている。終わると、川岸に行つて二対の人形を川に流し沈める。殿<sup>デイエン</sup>でお供えをして、ハウ儀礼を行う。身体の治療としては、頭を抑えてマッサージ、息を吹き込むなどの所作。ハウ儀礼では、婆姑が降神した。

八月十八日(月) 旧暦七・二十一

八時〜十三時 ZC氏宅で、祖父の忌日祭祀。

十四時半〜十六時半 村長さんに系譜図にもとづいて今日の参会者を確認。昨年調査した庵についての論文の写真で都合の悪いところが無いか、意見を聞く。特に、無いが馬を祀る写真はベトナムでは動物祭祀がまだからどうかと言う感想。

八月十九日(火) 旧暦七・二十二

七時半 船着場でK、秘書、家庭仏子会長がコーヒーを飲んで世間話をしている。それに誘われ朝食食べ損ねる。

八時二十分 もと幼稚園教師に家庭と祭壇、幼稚園について尋ねる。

九時半 Sさんに、家庭と祭壇について。

十時半〜十二時半 PHDが父の忌祭の準備をしているところに通るばかり、見学。

十三時〜十三時半 忌祭の祿(お下がり)で満腹だが、注文してあった店でも昼食の箸をつける。

十五時～十五時四十分 P宅 家庭と祭壇について。

十五時五十分～十七時五十分 タイクンT氏の子供夜泣きのクンを観察。  
むらのバイクで宿へ。

インタネットメール一度だけ繋がる。

八月二十日(水) 旧暦七・二十三

八時十分 村長宅、外出中一〇分待つ。雑談のうちに村の特別な生業の話が出てくる。

八時二十分 沈香削りの家庭訪問。

八時半 むら一軒だけのパン製造見学。その父親は外に出ていてものの見方が明快。個人の庵は、戦争中殆どなかったという重要な発言。

シンちゃん(七十代の故老だが、童顔で豊饒としていて気軽に木登りをする)ことからつけさせてもらったあだ名に会い、自家製総合酒と果実コットをご馳走になる。昨年自分の写っていたはずの写真を持って来なかったことをやんわり言われ、今度は、川上君としっかり撮る。

十二時～十三時 昼食を取る店で、合作社の作物状況調査班が昼食中。

チュンビット(孵化寸前のアヒルのゆで卵)をご馳走になる。このような状況では、好意の印を食べないわけには行かないが、どうも好きになれない。

十三時五十分～十四時十分 タイクンの家に行き昨日のお礼と疏文さいそく。

十四時二十分～十四時五十分 家庭と祭壇見学。

八月二十一日(木) 旧暦七・二十四

八時半 村長もみ干し中。

八時五十分 PNP宅の祭壇。

十時半～十一時 PNPhap酒造りと養豚について。

十一時二十分～十一時五十分 NVM NNGの派の祠堂。庭に庵沢山あり信者。

十四時二十五分 NNでNQの祠堂の鍵を借り、開けてもらう。族譜写し。

十七時発、宿への途中、もと華僑の多かったファンダオリユウ通りを歩く。中国的雰囲気は表面上殆ど無いが、内に漢字の額のある店を三軒位みかける。入ってお爺さんの一人に故郷を聞くと、緊張した顔で自分はベトナム人だと言い、家族が心配そうに出てくる。出口の方に、歯医者看板が十軒以上並んでいて、そのうち一つに漢字が書いてある。

八月二十二日(金) 旧暦七・二十五

七時発

七時半 村長さんと清河の市場へ。通りに面している祠堂も亭も清福のより一回り大きい。さすがに思っていると、村長さんの思い違いで、清河はすでに通り過ぎていて、清中という別の村。村長は、まちがえ済まなく思ったのか、チャンパの遺跡を見に行こうと言う。名所になっているのかと思ったら、村の対聯のある家、野菜畑の家に入る。しかし、ノートを取ったり野菜と水田の関係について聞いたりしているうちに警戒し始め、切り上げる。やはり、キン族の村でも、初めての村ではかなり緊張関係がある。清福内での雰囲気慣れっこになっていると、足をすくわれかねない。清福を右岸に見ながら中学校の道を通って帰る。

八時五十分 篤農「J」氏宅。



十時二十分 KAの弟

十二時～十二時五十分 昼食 党の監査を迎えて、地元幹部の会食。最初、ビールつきあう。

十四時十分 NNT氏宅の祭壇。

十五時半 タイクンに疏文をもらいにゆく。

十六時半 村長、PHPhungさんと渡し舟にオートバイを乗せ、対岸にわたり、そのむらの字儒の家に預けて有る張姓家譜を複写する。帰りはオートバイでフエに出て、雄王通り村長さんが学生時代の馴染みの店で夕食。

大西さんから電話あり、滞在が済み、明日フエ着の予定とのこと。

八月二十三日（土）旧暦七・二十六

七時半 Kさん待ち合わせ。

八時 香河の水上生活者の庵を確かめたいので、ダオズイアイン通の人民委員会に行き、Kさんが当直に話をつけ、主任を呼び出し、了解を得る。本来前もって話を通しておくべきところ、Kさんが同行すると言うことで快く了承してくれる。川辺では、ちょうど戸籍簿の点検をやっている。そこに並んで居たソフト帽を被った年寄りに話しかけ、その船に行く。祭壇が三段で香炉の数が沢山ある。かなり詳しく話が聞ける。基本的には、陸上と同様のパターン。Kさんの発案で、記念写真を撮って送ることでお礼とする。次に、お茶を飲んでゆけと言った若い兄弟の船に行つて話を聞く。この二つで大方の感じが掴めたので、飛び込みに近い調査に長居は無用と、舟の若者たちのシクロ三台雇つてホテルに。Kさんを送つて、清福に引き返す。

〈報告〉平成一五年度「學術フロンティア」プロジェクト

十一時 村長さんのところに挨拶。

十二時～十三時二十分 何回か訪れ行商で留守だったお婆さんから、ライフヒストリーの感じで聞いてゆく。早く嫁入り前から、女神の神様に。庵についても丁寧に話が聞ける。

十八時～二十一時 Kさん来る。タイグエンレストランで香河を眺めながら食事。

八月二十四日（日）旧暦七・二十七

六時二十分～七時十分 ファンボーイチャオ通りと市場へ朝の散歩。途中で漢字の牌位の有るもの三例をビデオに収める。

八時四十分着 村長宅

九時五十分 IXI二歳のとき父親が出家。

十一時 PH氏祭壇無いので、一日一食で祭壇用意できず。

十六時二十分～十七時十分 L夫一年前に亡くなる。祭壇について。

十七時二十分～十九時四十分 村長宅で馳走。Hueの名物、バインとマムトム系料理、おいしいものばかり。

八月二十五日（月）旧暦七・二十八

七時半 DB先生宅へ、清福むらにつき、村長さんと一緒に社人民委員会に挨拶にゆく。しばらく待つて主席に報告、DB先生が、調査は学術的研究だけでなく、地域の知名度をあげ、その発展にも役立つことを説明。十時～十一時半 もと華人が多く住んでいた地霊の天后廟に行つて詳しく聞いているうちに、時間がたってしまう。

十三時～十五時 ドンバ市場に竈神と箸・お菓子オワンを買いに行く。銀行、郵便局、フエ科学大学前の古本屋に。

十八時～二十一時半 DB先生をタイグエンレストランで招待。

八月二十六日（火）旧暦七・二十九

八時 村長宅 話しているうちに、ここでの調査の感想を書いてくれとノートを出される。昨日の話をもとに、水郷、歴史と伝統の文化村、教育に熱心なむらで、人々が親切という点を箇条書きにして、川上君に訳してもらう。このため、予定していた村各戸のデジカメ写真撮れなくなったかわり、庭と畑が一つで、その周りという概念の存在を指摘。

十時村発十時半宿着 十一時十分発

十一時四十分空港着。十四時四十分発 二時間以上前に空港に来て四人窓際で、撮影体勢確保したのに、海岸線は前回ほど明瞭には見えず。

十五時十五分ハノイ着

二十三時五十五分就床

八月二十七日（水）旧暦七・三十

九時 宿の近くで散髪 一四〇円。

十時半～十一時 郵便局 本一四キログラム船便で発送 三九ドル

十一時 チャンティエン通の露天本屋で地図を購入。

十一時十五分～十二時五十分 OWさんに「さくら」へ招待される。こ

の日本料理店は、ハノイでは老舗で有名だが十年目にして初めて入る。

十四時半～十六時 大西さんに疏文の解説。いろいろ雑談交じりで二例。

十六時半～十七時 民間文化研究所でNDT所長と会い、報告と挨拶。

雷雨

十七時半～十九時 Cay Cau と、ベトナム料理。荷造り終え、川上君

と清福調査について話す。

二十時四十分～二十一時二十分 空港へ。

二十三時半 離陸。

八月二十八日（木）旧暦八・一

五時 朝食、七時半 成田着。それほど眠くないので研究室へ。

今回の調査によって、以下の点が判明した。

一、昨年の庵調査の補充。現在数多く見られる庵は、比較的最近増加したものである。

二、むらの家並み図作成。むらの周辺部の敷地が狭くなっていて、集落の形成過程が推測される。

三、家の祭壇の調査。本家分家関係と祭壇祭祀の関係。分配祭祀、遙拝。

四、周辺村落との関係。貧窮者が少ない点で比較的裕福であるが、農業だけではなく、出稼ぎが多い。養殖業、煉瓦工場は殆どない。

五、レンドンへの親族の降神。婆姑が家族に注意を与える。

六、ディエン・ホンチェン祭礼における少数民族的要素についての補充資料。